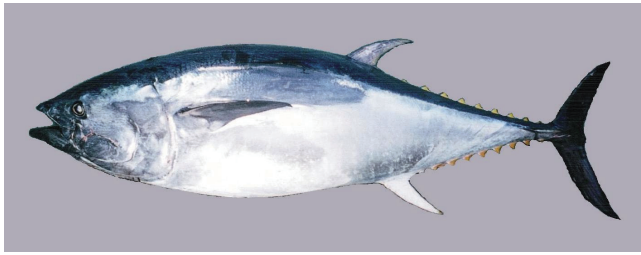


# 大西洋クロマグロ 西大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



### 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

### 最近一年間の動き

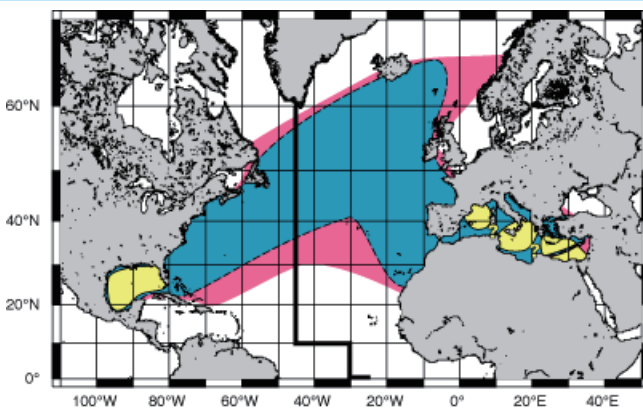
2006年の漁獲量は1982年に漁獲規制が導入されて以降で最低水準(1,905 トン)であった2005年をわずかに上回り1,928 トンにとどまった。これは米国の漁業の不振によるものである。2007年と2008年のTACは2,100 トン(日本は380.47 トン)

### 生物学的特性

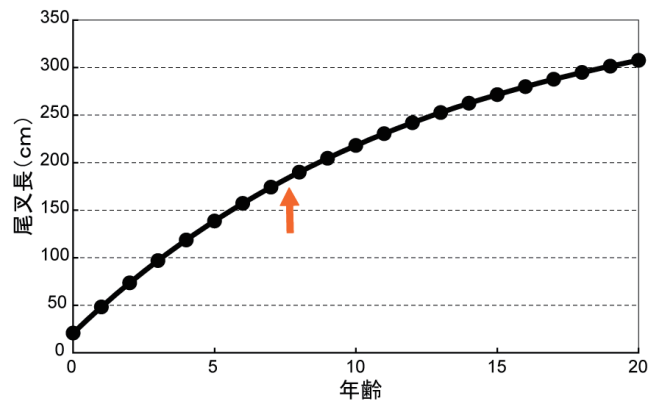
- 寿命：20 歳以上
- 成熟開始年齢：8 歳
- 産卵期・産卵場：5～6 月、メキシコ湾
- 索餌場：北緯 35°以北の北大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

### 利用・用途

刺身・すしなど



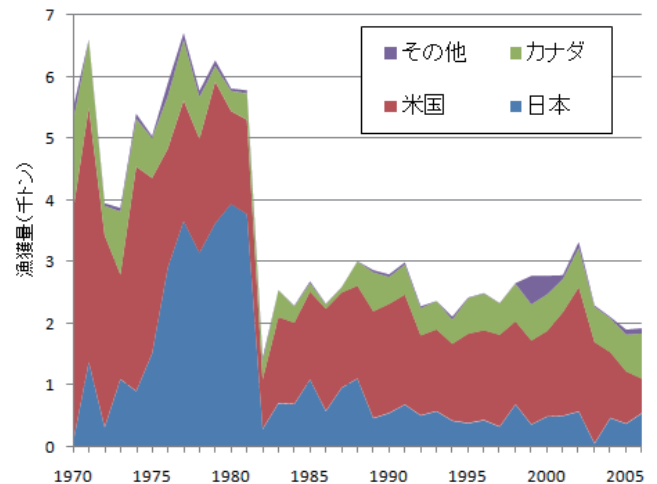
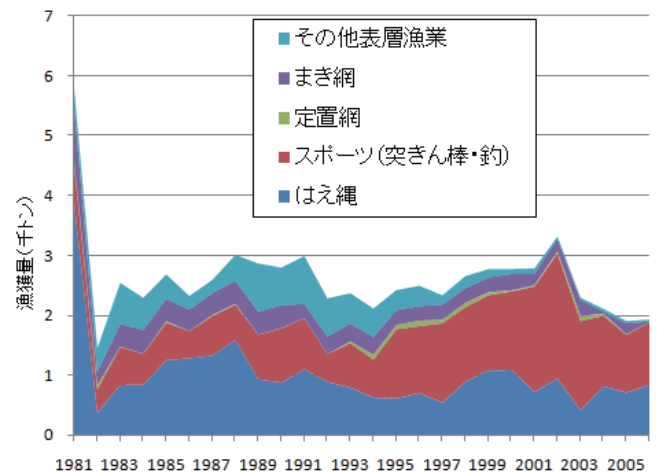
大西洋クロマグロの分布域と主要漁場、産卵場  
索餌場は産卵場を除く分布域。縦太線は東西の系群の区分。



大西洋クロマグロ(西系群)の成長曲線 (図の矢印は成熟体長)

### 漁業の特徴

主な漁業国では、日本ははえ縄のみを、米国は釣りを主体にはえ縄・まき網を、カナダは釣りを主体にはえ縄の操業をする。漁期は日本が11～3月、米国が主に7月～11月、カナダは8～11月である。



本資源の漁法別漁獲量 (上) と国別漁獲量 (下)

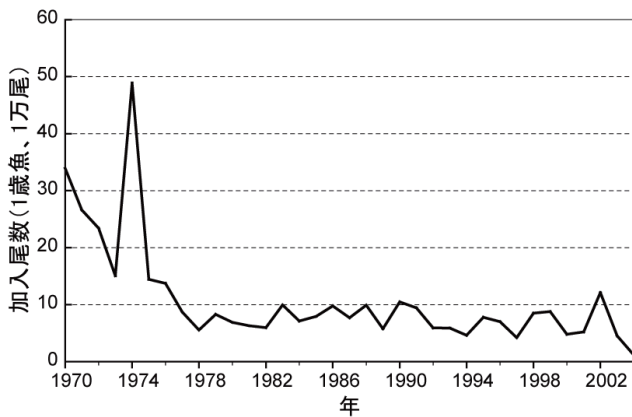
(※漁獲量には投棄を含む)(データ：Anon. 2007)

**漁業資源の動向**

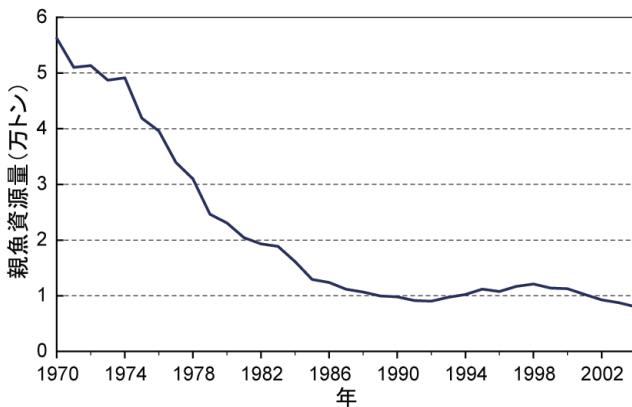
漁獲規制により 1983 年以降ほぼ 2,500 トン前後となっている。2004 年以降米国漁業が不漁で漁獲割当量を満たせない状態が続いている。2007 年から 2008 年までの TAC は 2,100 トンで、そのうち日本は 380.47 トンであった。

**資源状態**

推定された親魚資源量（8 歳以上）、加入尾数（1 歳魚）を右に示す（ICCAT 2006）。親魚資源量は 1970 年以降減少を続け、1990 年代にいったんその傾向が止まった。しかし、1998 年以降わずかに減少傾向が見られ、2005 年の親魚資源量は 1975 年の 19% となっている。加入は 1976 年以降低いレベルで安定している。



大西洋クロマグロ (西系群) 加入量 (1 歳の尾数)



大西洋クロマグロ (西系群) 親魚資源重量

**管理方策**

1998 年に、ICCAT は 2018 年までに 50% 以上の確率で最適な資源状態に回復させるという計画を決定した。しかし、同科学委員会は 2006 年の資源評価で、今後の TAC を 0 としない限り最適な資源状態には回復しないことを示した。一方、短期的には TAC を 2,300 トンにすれば 2006 年現在の親魚資源量を 2009 年まで維持でき、2,100 トンでは年に約 1.5% の親魚資源量の増加が期待できるとした。2006 年の年次会合は 2007・2008 年の TAC を、2,100 トン（我が国は 380.47 トン）とした。次回予定の 2008 年の資源評価により、2009

年以降の漁獲割当量を改訂する予定である。他の規制は、115 cm（または 30 kg）未満の漁獲量制限（国別に 10%、経済行為禁止）を併せて実施中である。

**資源評価まとめ**

- 資源評価は ICCAT の科学委員会において実施
- 親魚資源量は低位でやや減少傾向
- 加入尾数は低いレベルで安定
- 不確実性は大きく資源水準は不明

**資源管理方策まとめ**

- 2018 年迄に 50% 以上の確率で最適な状態に回復させる
- ICCAT 科学委員会は TAC を 0 にしなければ目標達成は無理と指摘
- 2007 年と 2008 年の TAC は 2,100 トン
- 小型魚漁獲制限

**大西洋クロマグロ (西大西洋) の資源の現況 (要約表)**

資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (投棄を含む) (2002~2006 年)	1.9~3.3 千トン 平均: 2.3 千トン (投棄を含む)
我が国の漁獲量 (2002~2006 年)	57~575 トン 平均: 406 トン